

## 平成26年度 総合型地域スポーツクラブ全国協議会 総会 概要報告

平成27年3月4日(水)、「シダックスホール(東京都渋谷区)」にて、「平成26年度総合型地域スポーツクラブ全国協議会(SC全国ネットワーク)総会」が開催されました。SC全国ネットワーク幹事長挨拶、議事、育成プラン2013に係る概略説明および事例発表、グループ協議、オリンピックデー企画事例紹介の様子を抜粋して報告いたします。

<13:30>

### 1. 挨拶

#### 桑田 健秀 (SC全国ネットワーク幹事長)

平成26年度は、総合型地域スポーツクラブ育成プラン2013の推進に向け、各種研修会の開催や都道府県連絡協議会の現状把握など無事に終了することができました。

全国各地の総合型地域スポーツクラブ(以下:クラブ)に自主・自立の認識が浸透し始め、現状のままではクラブの継続が難しい、との危機意識が芽生え始めております。地域で活動する個々のクラブが連携しあって難局を乗り越えるべく、工夫が凝らされてきているとも感じております。

そこで、今後の活動の基軸は点から面への展開であり、都道府県連絡協議会等の中間支援組織の強化、すなわち面での実践力の強化に尽きると考えております。

財源の確保と併せて都道府県、ブロック、SC全国ネットワークと支援組織の充実も急がれるテーマですが、助成金頼りの運営から、それぞれがスポーツ教室や各種イベントなどを中軸に様々な事業を展開し、確実に活動資金の確保を検討していくことが重要であると考えております。

本年2月12日、SC全国ネットワークとして日本経済団体連合会のスポーツ推進委員会企画部会において、クラブのプレゼンをする機会をいただき、約60社の一部上場関係企業の皆さまにクラブのPR、連携のお願いをすることができました。今後、企業や大学など各関係団体との連携が深まるよう働きかけを強化していく所存です。

皆様方も地元企業などへアプローチしていただければ地域社会への普及にもなると考えます。

他方、残念なこともありました。それはスポーツ振興くじ助成金の不正使用の問題です。不適正な使用が近年多発しクラブの評価を下げておりますが、このことについては皆様が自ら肝に銘じていただき、加入クラブへの指導をお願いいたします。

また、スポーツ現場や組織運営のなかでパワハラ・セクハラ、暴力問題はあってはならないことで、暴力の根絶についても併せてお願い申し上げたいと思います。



将来組織運営に欠かせないのがクラブ経営者や組織リーダーの人材育成です。ここにお集まりの代表委員が地域のリーダーとして、様々な諸問題に対し、より積極的に役割を果たしていただきたいと思います。

2020年東京オリンピック・パラリンピック開催と、今年の秋のスポーツ庁設置など、スポーツ界に追い風が吹いております。日本のスポーツが大きく変化しようとしているこの時にこそ、地域でスポーツに携わる我々にとって2015年度は大きなチャンスであり、より積極的な活動展開をしてまいりたいと考えております。

また、「スポーツを核とした豊かな地域コミュニティの創造」という新たな基本理念にのっとり、各々が設立当初の夢を語り、それを実現するため、東京オリンピック・パラリンピックをきっかけに、地域スポーツの確固たるインフラ構築にむけ、関係の皆様とともに進めてまいりたいと考えておりますので、今後ともよろしくご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

<13:35>

## 2. 議事

### (1) 平成27年度事業計画(案)について

事務局より資料に基づき、平成27年度の総合型地域スポーツクラブ育成事業計画(案)について説明しました。

主にSC全国ネットワークに関わる事業として、ブロック別クラブネットワークアクション2015、総合型地域スポーツクラブ連携支援事業としてヒューマンエラー防止研修会等の概要を説明し、異議なく承認されました。

### (2) 平成27年度の取り組み(案)について

事務局より資料に基づき、SC全国ネットワークの組織目標、平成26年度の取り組み実績、平成27年度の具体的な取り組み(案)について、以下のとおり説明しました。

- ・情報提供機会の拡大として、クラブや都道府県連絡協議会の成功事例やユニークな事業などの事例収集およびそれらを共有することで、地域の活性化・課題解決に寄与する。
- ・クラブが抱える課題を集約し、SC全国ネットワークの取り組みに生かすとともに、集約した課題を国や関係機関へ伝え、課題解決に向けた具体的な提案を行う。
- ・広報・PRの強化として「らくらく広報ガイド」や「総合型クラブ公式メールマガジン」を活用した研修等の実施および2020年オリンピック・パラリンピック東京(日本)開催に向け、オリンピックデーに関連した企画提案を継続して実施し、総合型クラブの認知度向上につなげる。
- ・SC全国ネットワークの組織力を活用し、総合型地域スポーツクラブ育成プラン2013の実行に取り組む。また、地域やクラブの多様性に着目し、同プランを個々のクラブに浸透させる取り組みを検討する。

以上説明し、異議なく承認されました。

### (3) 平成27・28年度役員改選について

事務局よりSC全国ネットワーク規約第11条第1項にもとづいた役員改選について、これまでの役員改選に至る経緯を説明し、平成27・28年度代表委員、ブロック代表常任幹事を報告しました。

### (4) その他

宮城県および青森県の代表委員から、総合型地域スポーツクラブプロジェクト(仮称)の動きやSC全国ネットワークとの関係、位置づけに関する情報が不足しており各都道府県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会加入クラブに混乱を招いたとの指摘がありました。これを受け、事務局より同プロジェクトについて、これまでの動向を説明しました。また同プロジェクト発起人代表より、同プロジェクトの現状報告を行いました。

<15:15>

## 3. 概略説明 「総合型地域スポーツクラブ育成プラン」2013の背景

日本体育協会クラブ育成課長代理 加藤 弘和

総合型地域スポーツクラブ育成プラン2013(以下:育成プラン2013)の策定に至った背景について、日本体育協会と日本オリンピック委員会が2011年に創立100周年を迎えたことを契機に策定した「スポーツ宣言日本」、2011年に策定した「21世紀の国民スポーツ推進方策」をもとに説明しました。

<15:45>

## 4. 事例発表 「育成プラン2013」取り組み事例紹介

2013年6月に実施しました「各都道府県連絡協議会現状把握アンケート」において、「育成プラン2013」を今後取り進めるにあたり、連絡協議会として既に取り組んでいる、もしくは今後取り組みそうな具体的な事例を紹介しました。

### 総合型地域スポーツクラブ北海道ネット

SC全国ネットワーク副幹事長 伊端 隆康

総合型地域スポーツクラブ北海道ネットの実施計画として以下の4つを紹介しました。

- ◆「人材育成」・・・
  - ・クラブ間交流としてのインターンシップの実施(相互研修機会の拡充)
  - ・人づくりをテーマにした研修会の開催
  - ・SC就業希望者または学生の受け皿としてのインターンシップの検討
- ◆「実践事例の情報提供」・・・
  - ・情報を聴きやすい環境を広げる



- ・自クラブをアピールする機会を増やす
  - ・実践事例の集約と公表の仕組みを検討する
- ◆「相談窓口の開設」・・・最初の相談窓口をクラブアドバイザーとする  
内容に応じアドバイザーから他の経験者に回す  
専門性の高い事例は専門家に委ねる(有料)
  - ◆「法人化への指導助言」・・・法人化に関する質問の相談窓口を決める  
相談員は法人化したクラブのクラブマネジャーなどとする  
専門的な相談はプロに委ねる

### 石川県クラブ連絡協議会(いしかわクラブゾーン)

SC全国ネットワーク常任幹事 榎 敏弘

持続可能な仕組みづくりとして、ビジネスモデルを学ぶ場、クラブマネジャー育成の場を主体とした、以下の取り組みを紹介しました。

- ◆クラブマネジャー・事務局カフェ・・・  
クラブの悩みや想いを語り合う場(情報交換の場)

- ◆クラブ維新塾・・・  
北信越ブロック全体としてのマネジメント人材のネットワークを構築

- ◆公認スポーツリーダー養成講習会の開催・・・  
県教育委員会や県体協、大学と連携し、指導者を対象に開催

- ◆クラブ未来創造塾・・・外部講師を招聘し、クラブマネジャー、スタッフを育成する



<16:10>

## 5. グループ協議 「育成プラン2013」を取り組めるために

事例発表「育成プラン 2013 取り組み事例紹介」を踏まえ、各都道府県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会として、今後取り組みそうな事業を各ブロックにて協議しました。主に、「法人格取得に向けた指導、助言体制の整備」、「実践事例に関する情報収集と提供」、「人材育成」、「相談窓口の開設」、「著名人による総合型クラブ応援団の結成」について、各協議会での課題や改善策等を協議しました。



<16:50>

## 6. 報告 オリンピックデー企画事例の紹介

SC全国ネットワーク副幹事長 関口 昌和

昨年、SC 全国ネットワークが広報・PR 活動の一環として、各都道府県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会に実施提案した「オリンピックデー」に関連した企画の実践事例を紹介しました。お金はかからず、楽しく行うことができ、オリンピックに絡めた企画ということで、地元の新聞社に取り上げられ、記事化されたことを紹介しました。今年はさらに多くの総合型クラブがオリンピックデーにちなんだ企画を行うことで、さらなる認知度向上につながることを期待されます。



以上、すべてのプログラムを終え、閉会しました。